

特集にあたって

前野哲博

1 本特集のねらい ～自分の“エッセンシャルドラッグ”をもとう

現在の医療においては、覚えきれないほど多くの種類の薬が診療で使われています。治療の選択肢が多いことは大変ありがたいことなのですが、幅広い疾患の治療にあたる総合診療医にとっては、すべての薬を使いこなすことは実質上不可能です。

ここで大切になってくるのが、エッセンシャルドラッグという概念です。これは、日常診療でよく遭遇する疾患・病態の薬物療法において、使用頻度、効果と副作用のバランス、コストなどを考慮して“使いこなすべき薬”を絞り込んでいくという考え方で、多くの疾患を取り扱う総合診療医にとって大変重要なものです。特に総合診療医としてのトレーニングを積んでいる途中のレジデントは、新しい薬を多数覚えるよりも、まず基本的な薬剤（100種類程度）について十分に使いこなせるように経験を積むことが大切です。

このエッセンシャルドラッグのリストは、医学の進歩に伴い、常に更新していかなければなりません。ただ、新薬が発売されるとその新規性がばかりが強調されるものの、必ずしもよいことばかりではありません。昔から長く使われてきた薬は、副作用等の情報も豊富に揃っていますし、値段も安く、何より処方する医師がそれを使い慣れているという大きなメリットがあります。その一方で、医学の進歩により登場した新薬が既存の薬よりも患者さんのケアに役立つのであれば、もちろんそれを使わなければ、患者さんはその恩恵にあずかることができません。したがってわれわれは、新しい薬が発売されたときに、自分のエッセンシャルドラッグのリストを変えなくてよいのか、もう少しエビデンスが揃ってから判断すべきか、長く使い慣れた薬を変更してでも切り替えるべきか、いつも悩まされています。

こんなとき、頼りになるのがその道の専門家の意見ですが、臓器別専門医と総合診療医では対象となる患者層が異なりますし、薬の使用頻度も違うので、「使い慣れる」ことができる条件も大きく異なってきます。また、同系統の薬剤AとBに多少の違いがあったとしても、臨床的にはそれほど大きなインパクトはなかったり、その使い分けが求められるほどの難しい症例はそもそも専門医に紹介する適応だったりします。

そこで本特集では、現時点において総合診療医が使いこなせるようになっておくべき、common diseaseの最新のエッセンシャルドラッグに焦点をあてました。総合診療医が、できるだけ少ない薬剤数で、患者さんに最新・最善の医療を提供するための参考になればと思っています。

2 本特集の構成

本特集では、プライマリ・ケアでよく使用する薬剤を中心に、① 降圧薬、② 血糖降下薬、③ 気管支喘息治療薬、④ NSAIDs (非ステロイド性抗炎症薬)、⑤ ステロイド外用薬、⑥ 抗ヒスタミン薬、⑦ 抗不安薬、⑧ 抗うつ薬、を取り上げました。コンセプトとしては、当該領域の薬剤について網羅的・体系的に解説することよりも、エッセンシャルドラッグを絞り込んで、わかりやすく明示することを優先して構成されています。そのため、内容には執筆者の個人的な見解も含まれていますので、読者の皆さまはそのようなスタンスをご理解のうえ、お読みいただければと思います。

本特集の執筆者は、当該領域について豊富な経験をもち、プライマリ・ケアの現場をよくご存じの、第一線の臨床医の先生にお願いしました。こういう特集は、とすれば「A、BあるいはCのなかから適宜選択する」というような総花的な表現になりがちですが、あえてズバツと薬剤を絞り込んでいただくようお願いします。絞り込まなければエッセンシャルドラッグではありませんし、「とことん実践的であること」がこのGノートのコンセプトだと考えるからです。

また、「AとBはそれほど変わらないのでどちらか1つでよい」「最近発売された新しい系統の薬は、既存薬をおき換えるほどではないのでまだ手を出さなくてよい」「この3つだけ覚えて使いこなせば大丈夫」「CとDの効果の差は専門医レベルの話であり、総合診療医はまず副作用が少ないCではじめてみて、うまくいかなかったら専門医に紹介、で十分（だからDは覚えなくてよい）」などの記載も、できるだけ盛り込んでいただくようお願いします。またそれぞれの論文の最後には、「私が選ぶエッセンシャルドラッグ」として、執筆者の先生方が個人的に最も使用している薬剤名と、その理由を書いていただきました。どの論文も期待に違わぬ出来栄で、経験豊富な臨床医の知恵が凝縮された、明日から使えるクリニカルパールがいくつかの特集に仕上がったのではないかと思います。

「自家薬籠（やくろう）中の物」という故事成語があります。本来は「自分が普段使っている薬箱の中身」という意味で、いつでも自分の思う通りに利用できる人や物の例えとして用いられます。ぜひ、今回の特集を参考に自分のエッセンシャルドラッグのリストをつくり、それを文字通り「自家薬籠中の物」として使いこなせるようになってください。

プロフィール 前野哲博 Tetsuhiro Maeno

筑波大学附属病院 総合診療科

昨年、茨城県と福島県の県境にある北茨城市に北茨城市民病院附属家庭医療センターがオープンしました。月1回ではありますが、私もそこで診療させていただいています。15年間勤務している大学病院とは患者層や疾患構造が全く違うので、そのギャップに不安を感じることもありますが、自分の家庭医としての原点を感じながら、楽しく診療しています。